

事務局対応案
 1. 素案修正
 2. 素案どおり
 3. その他

部会意見
 1. 事務局案を採用する
 2. 事務局案を修正する
 3. その他

項目	番号	ページ	委員発言内容	事務局対応案	修正案及び修正をしない理由等	部会意見
1 田園型政令市にふさわしいまちの姿	1	71	現状と課題 については、施策につながるような書き込みを。また、表現についての統一を。 「～だから、～が必要である。」	3	全体に統一を取るよう検討する。	
	2	71	1つめ：広域合併により、市域が広がっただけではなく、人口も増えた記載が必要である。	1	"市域が広がり、人口約81万人を擁する大都市となりました。"という表現に修正する。	
	3	71	7つめ：公園面積だけ数値が入っているのは唐突で、統一したほうがよい。	2	市民一人当たり公園面積は、公園の整備状況を表し、他都市との比較にも有効な指標であると共に、市民からの関心も常に高い指標であることから、素案どおり記載したい。	
(1) 都市化社会から都市型社会へ	4	73	「都市化社会から都市型社会へ」は、市民にはわからない。	1	「拡大型の都市づくりから質の高い都市づくりへ」に修正する。	
	5	73	無秩序な都市の形成は正さなければならないが、“市街地の拡大は抑制を基本とする”だけでは、表現として強すぎる。	1	少子高齢化による将来的な人口減少の見通しが予想されるなか、郊外に新たな市街地形成を行う必要性は低くなっています。このため、良質な農地の保全や効率的な都市経営に向けたコンパクトな都市づくりの実現のため、市街地の拡大は抑制を基本とし、本市にとって真に必要な開発を見極め、その開発が良好な都市のストックとなるよう誘導します。	
(2) 田園の保全と自然に配慮した整備	6	74	定年帰農システムの整備を入れて欲しい。	2	P84 新規就農者の確保・多様な就農の推進 に記載。	
	7	74	“自然環境の保全を優先し、…”などの文言を入れて欲しい。	2	小項目に「自然に配慮した整備」の文言を記載しているため、修正しない。	
	8	74	「田園」の定義をはっきりさせたい。美田なのか、都市と対比しての総称としての「田園」なのか。	3	「田園」については、「都市」と対比して、農地・集落を含めた総称として使用している。	
	9	74	“除草剤を使わない～”とP82 “化学肥料の使用量を低減した～”では、整合性が取れていない。	2	P74では除草剤をいっており、P82では農薬・肥料をいっているものである。化学合成農薬・化学肥料をまったく使用しないというのは無理がある。	
(3) 豊かな水と共生するまちづくり						
	10	75	P75(4)にもあるが、“自然共生空間”の表現がわからない。自然での共生は競争の中でのもの。	1	「自然共生空間」を「自然と人間とが共生する空間」に修正する。	
(4) 豊かな自然の保全と育成	11	75	自然とは“緑”“水辺”“大地”が基本である。この分類で表記したらどうか。	2	“大地”には、生産の場としての「農用地」の“緑”を含めていることから、はっきりとは分類できない。	
	12	76	里山の構成要素は、森林だけではなく、生物的多様性を非常に含んでいることから、この生物的多様性を保全するという考え方をした方がよい。また、里山は、市民共有の財産であるということは分かるが、所有者は個人のものもあることから、保全・活用の際にはこれを整理しておかなければならない。	3	里山については、所有者の理解を得ながら、保全を図っていく必要があるが、具体策については今後検討したい。	
	13	76	管理の部分にもっと踏み込んで、マネジメントの考えを入れてはどうか。	1	「RDB(レッドデータブック)の作成・活用や野生生物に関する各種調査により、生息状況等を把握し、市民と情報を共有しながら希少動物種の保護や有害鳥獣対策等を適切に実施し、市民とともに野生生物の保全を図って行きます。」に修正する。	
2 都市と田園が恵みあう関係	14	77	3つめ：農業生産の数値が周知されていないのではなく、米以外の農産物が知られていないのではないか。	1	「本市の農業生産は、その数字から見ても全国に誇るべきものですが米以外のさまざまな「食」の豊かさについて市民からは認知されていないのが現状であり、今後それらの情報を」に修正する。	
	15	77	4つめ：“農業に関する関心が低下することで、食習慣の乱れが助長されています。”は、言い過ぎではないか。	1	「都市化の進展等により農業に接する機会が減少し、消費者の食料に関する知識や農業に対する関心が低下していることも、食習慣の乱れを助長する一因となっています。子どもの頃から食や農業に対する興味・関心をはぐくめるよう、食や農業の大切さを体験などを通して学ぶ場」に修正する。	
	16	77	4つめ：農業に関する関心を高めるために、また、人材育成のためにも小学校からの農業教育が必要であると思うがどこかに記載するか。本市には、農業高校がない。	3	市として何ができるか検討する。	
3 田園型政令市を際立たせる食と花						
(2) 安心・安全・おいしい農産物						
	17	82	有機農業や環境保全型農業を進めていくためには、上越市のように目標値を定めてはどうか。	2	新潟市農業構想に記載してある。	
(3) 収益性の高い農業の確立	18	83	後継者問題や人材育成のために、農業教育のほかに、いかにして経済的に農業収益を上げられるかが問題となる。収益性が上がれば魅力も増す。小規模農家の収益性を上げるためには、観光農園や直売所の視点が必要。	2	高収益については、P83(3)に記載。その中でも、水田農業が一番重要であると考え。直売所については、P84(3)販売経路の多様化に記載。	
	19	84	担い手の育成として、専業農家、兼業農家どちらに重点を置いて育成するのか、方針はあるのか。	3	専業農家を中心とした経営体、組織を本市の担い手の主体として重点的な支援が必要と考えるが、それをサポートするものとしての兼業農家も大事なものと考えている。	
	20	84	農家と農業に興味のある企業・個人を繋ぐ仕組みづくりが必要。農業をやりたいと考えている人がどこへ相談してよいかわからない。	2	(1)都市と田園のふれあい 農業・農村をサポートする仕組みづくりの中で「(仮称)農業・農村コーディネートセンター」の活用を記載してある。	
(4) 農業の新たな可能性を拓く	21	84	川上・川下のコラボが必要である。	2	具体的には実施計画で。他産業との連携については、P84 及びP85 に記載。	
	22	85	農産物の輸出については、世界の潮流を認識した上で、相手国の理解を得られることが大事である。	3	委員の指摘を踏まえて、事業を実施する。	
4 市民と築く環境先進都市						
(1) 地球環境に貢献する						
	23	89	技術協力も進んでいることから、“国際協調”ではなく“国際協力”ではないか	1	“国際協力の推進”に修正する。	
(3) 廃棄物の減量・リサイクルの推進	24	90	ごみの分別が6から12になるなか、未来を担う若者、特に大学生に分別をしないなどの不法投棄が問題となっている。	2	具体的な施策については実施計画で検討予定。	
(4) 資源循環都市づくり	25	91	雨水や浄化処理水などの水のリサイクルの記載が必要である。	2	雨水については、P132(4) 浸水対策の推進 に記載。下水浄化処理水のリサイクルについては、新総合計画の期間内では実施予定はありません。	
	26	91	東港や西港周辺において、工業地域ということで、リサイクル施設や産業廃棄物処理という名目の施設が立地しているが、都市計画と環境の両部門でもう少しちゃんと考えておいてもらいたい。	2	産廃については、育成と規制強化が必要。そのため、平成17年度に市独自条例を制定。	

事務局対応案

1. 素案修正
2. 素案どおり
3. その他

世界と共に育つ，日本海交流都市

項目	番号	ページ	委員発言内容	事務局対応案	修正案及び修正をしない理由等
1 都市を活気づける交流人口の拡大	1	97	「交流人口」の定義について確認したい。	2	「交流人口」は、一時新潟を訪れていただく方々を意味する。
	6	97	1つ目と の8つ目については、食や農産物について同じようなジャンルのものなので、項目として配置を近づけておいた方がよい。	2	体系として1つ目は[食と花の新潟のイメージ確立]として記載しおり、8つ目は「魅力の掘り起こし・整備」として記載しているため素案のとおりとします。
	7	97	6つ目：「国体」について、これは一過性のものであることから、一番最後にもっていったらどうか。「国体の準備を行いそれをバネに上記の事柄を達成する」などの書き方ではどうか。 また、文章的にも“本市の魅力を全国にアピールする絶好な機会であるので、…”を前にもってきたほうがよい。	2 1	体系として「集客・交流の拡大」に関連するので、位置は素案のとおりとします。表現方法を修正します。
	8	97	4つ目：“魅力的な観光資源が豊富に存在しているにもかかわらず、”とあるが、観光資源がないことが問題であると認識すべきである。	1	確かに、全国的に著名な名所・旧跡などの絶対的な観光資源はありませんが、首都圏等、大都会に住んでいる方が魅力や感動を覚えるような「水辺空間」或いは「田園空間」は間違いなく存在しています。 合併により食・花・みなとまちに関わる魅力がさらに増したと認識しておりこれらの魅力を的確に伝えることにより、「みなとまち」「食と花の都」2章の表現に合わせる形で修正する。
	9	97	5つ目：“米のほかにも～かわからず、”は、言い訳がましい。また、農産物の魅力の発信に、食材にプラス「グルメ」「ヘルシー」または付加価値をつけてアクティブな発信	1	
	10	97	8つ目：“～守っていく必要がある。”と、守りの姿勢であるが、この伝統的食文化はヘルシーで見直されているなど、守る以上に打って出さなければならない	1	修正する。
	11	97	4つ目：「水の都」のについて、具体的展開を記載しているのか。水と共生するというのはあるけれども。 8/19のシンポジウムにあったように、舟運により各河川を結びつけ、“川の回廊”をつくったり、“北前船”を活用しては。	3	「水の都」と「みなとまち新潟」について、ご指摘・ご意見を踏まえて、整理させていただく。 P121 (2)水辺を活用したにぎわいづくり に記載があるが、ここへ入れるかどうか検討したい。
	12	99	水上バスの宣伝が足りない。	3	市のHP、パンフレット等に掲載する他みなとに関連した各種イベントを通じPRしていきます。
	13	99	国内だけでなく世界に向けて打って出るには、関東地区・関西地区に前線基地のようなものが必要である。	2	「東京事務所」を設けており、そこが首都圏における前線基地と考えている。 関西にはまだない。

項目	番号	ページ	委員発言内容	事務局対応案	修正案及び修正をしない理由等
	14	99	3つ目：“市民がより身近に親しめる海岸空間とするための～”とあるが、ロラン跡地の公園のように、自然と施設整備の整合性についてど	1	「自然との共生を図りながら」の表現を追加する。
(1) 食と花の新潟のイメージ確立					
食と花のイメージアップ	15	99	政策的に新潟全部が花だというイメージをもっと出していく。各商店が競って花を置くぐらいになればと思う。	2	-9-(2)「みどりの街並みづくり」で表記しているため、この項は素案どおりとする。
(2) みなとまち新潟のイメージ確立	16	99	キャッチについて、「水の都」か「みなとまち新潟」かどちらかに統一した方がよい。統一した上で、市民や市外からの人たちにも周知できるよう、駅や信濃	1	「食と花」、「みなとまち」の魅力を核に都市イメージの確立と集客・交流人口の拡大を図ることとしており、「現況と課題」の文言をそれに合わせ修正する。
	17	99	“海岸・川辺の緑地などの水辺空間～”とあるが、海岸を指すのであれば海岸自体が水辺であるので、単に“海岸”とすればよい。	2	ここで言う緑地は、海岸のほか、信濃川左岸及び万代島緑地を含みますので、このような表現にしました
	18	99	ここに掲げている「みなちまち」とは、全て過去形で、新潟がどのような「みなとまち」を目指すのか示して欲しい。また、「水の都」についても同様。いずれにしても全国規模で言うものたりない。	2	「みなとまち」とは、人・モノ・異文化が交流し、それぞれがみなとまちとして個性ある独自の文化をかたちづけてきたところです。新潟は北前船の寄港地として江戸時代から「みなとまち」として発展してきました。回船問屋であったことを偲ばせる旧小澤家住宅やまちに張り巡らされていた堀割を利用したくらしぶりやみなとまち風情など、個性ある新潟に光をあて、磨き上げることで、新たな歴史・文化を生み出していくとともに、日本海に開かれたみなとまちとして、諸外国との
	19	99	港のそばに、本町マーケットのような商業施設が必要である。	3	万代島水産市場跡地の活用の中で、そうした商業施設の導入も含めて検討し
歴史と利便のまちなか形成(再)	20	99	“回遊性の高い快適なまちづくり”とは、どう解釈してよいかわからない。	3	都市基盤と公共交通網が整備され、公益・商業・文化施設が集中しているまちなかは、住む人・訪れる人が求める各種サービスを徒歩や自転車、公共交通で移動できる便利なまちです。その利便性に加え、徒歩や自転車での移動を楽しく感じられるようなみなとまち
史跡・歴史的建造物等の保存整備と活用(再)	21	99	合併新市の史跡・歴史的建造物は、新津の石油など「みなとまち新潟」いわゆる旧新潟市以外のものもあることから、再掲の施策の展開ごとに文章を変えているのならば、ここも変えなければならぬ	1	古町周辺地区の史跡・歴史的建造物等に限定した記述に修正する。
(4) 集客・交流の拡大		99			
魅力あふれる観光都市づくり(再)	22	100	“都市と田園の双方の魅力を堪能できる観光コースの設定”や“近隣観光地と連携して～”ということは、新潟への観光は車で来てくれといっているようなもので、“来訪者が観光しやすい環境づくり”のためにどのような具体策を考えるのか心配である。	2	車で来られる方には車で回れるコース設定が必要ですし、飛行機や電車で来られる方には2次交通の充実と案内が必要だと認識しています。また、街中のまちあるきコースの構築も必要であり、案内看板の新設やボランティアガイドの育成にも取り組んでいきます。 なお、「近隣観光地と連携し
(5) 魅力の掘り起こし・整備		101			
史跡・歴史的建造物等の保存整備と活用(再)	23	102	保存整備しただけでは「魅力の掘り起こし」にはならず、観光コースの設定などとセットで考えなければならないことから、再掲の施策の展開ごとに文章を変えているのならば、ここはもっと丁寧に書きこむ必	1	史跡・歴史的建造物等の保存整備と活用により、政令市新潟のイメージアップを図り、交流人口の増加につなげるように記述を修正する。
新潟の食文化の発信	24	102	伝統的な食文化など同じレベルで捕らえられないものについては、できるものはより具体的な言葉で表現した方がよい。	1	修正する。

項目		番号	ページ	委員発言内容	事務局対応案	修正案及び修正をしない理由等
	水辺・緑の 保全と活用 (再)	25	102	再掲については、施策の展開により 文章が違うのか。	2	再掲については、施策の展開により視 点を変えるべきものは、文章も変えて いる。
2	世界との交流と協調 による飛躍	26	103	「世界との交流と協調による飛躍」 の“協調”とはどういう意味か。 “協調”が入った理由はなにか。	2	本市が世界のさまざまな国・地域と交 流を深めるとともに、調和しながら共 存・共栄を図るという意味で協調とい う表現を使用しました。
		27	103	3つ目：港、空港、新幹線を含む 鉄道、高速道路などを持つことによ る地理的優位性の記載はあるが、そ れぞれが機能的に結ばれていないこ とについての記載がないので書き込	2	交通結節点の機能強化については、 「 - 4日本海政令市の拠点性の強 化」で記載しているため、修正しませ ん。
		28	103	3つ目：“本市は、日本海をめぐ る諸地域とは歴史的に古い交流の実 績を持ち、”とあるが、ここに 「(国際交流においては)わが国に おいては最も古い都市のひとつ」と	1	委員発言のとおり修正します。
		29	103	3つ目：新潟空港の国際線に、グ ラム(米国)を入れて欲しい。ま た、チャーター便についても記載 し、「新潟は、かなり開けている」	1	委員発言のとおり修正します。また、 チャーター便については 2つ目に記 載しています。
		30	103	3つ目：“東アジアの持続的開発 や”を“東アジアの持続的発展や” とした方がよい。	1	委員発言のとおり修正します。
		31	103	6つ目：“子どもたちが21世紀 の国際社会において、異文化に対す る理解を深め、～”とあるが、ここ に「価値観の共有」などという言葉 を入れたい。	1	表現を以下のとおり修正する。 「(略)子どもたちが21世紀の国際社 会において、異なる文化や価値観に対 する理解を深め、世界的視野に立つて (略)」
			(2) 幅広い分野で交 流を深める			
	姉妹・友好 都市との交 流の推進	32	106	姉妹・友好都市との具体的な関係性 が見えてこない。特にガルベストン については分からない。 お互いにどういう都市なのかを知り 合い、実際に機能し、連携・活用で きるイベントなどがあるとよい。	2	姉妹・友好都市との交流主体は行政か ら市民へシフトしてきています。昨年 度はガルベストン・ハバロフスク市と 提携40周年を迎え、市民団体等と実 行委員会を組織し、様々な記念事業を 実施いたしました。大勢の市民から参 加をいただき、両市民の国際理解と友 好親善を大きく深めることができた
33		106	合併前の旧市町村レベルでの姉妹・ 友好都市はどうなったのか。	2	旧市町村レベルでは、旧豊栄市がロシ アのピロピジャン市と姉妹都市を結ん でいただけである。 このピロピジャン市については、昨年 8月に新市として姉妹都市の調印を終 えている。	
34		106	今のところ姉妹都市、友好都市は、 世界的に下火であると思われるが、 今後姉妹・友好都市を増やすとい うことではなく、今関係を結んでいる 都市としっかりやっていこうとい うことではないのか。	2	委員発言のとおり、姉妹・友好都市交 流については、現在の提携都市と実 ある交流を展開していきます。 また、今後の都市間交流については、 分野別協定の締結など多様な交流を推 進していきます。	
	(3) 交流の土台づく り	35	106	“土台”という言葉で、一からはじ めるといのように感じてしまう。 “土台づくり”の説明が必要であり 検討して欲しい。	1	表現に誤解が生じないよう「交流の土 台づくり」から「世界へ開かれたまち づくり」へ修正します。
3	産業が生まれ育ち都 市がにぎわう	36	108	全体にメリハリがない。新潟市はど ういう企業をどうやって育ててい くのか、あるいは誘致したいのか見 えてこない。	2	「 - 3 (6)企業誘致の推進」に記載 しているため修正しません。
		37	108	2つ目：“製造業を中心とした産 業の活性化”とあるが、これは、ど ういう考えからか。	2	短期的には、交流人口の拡大などか らサービス業の充実やすき間産業のよ うなものも増えると思うが、長期的に は、製造業を核とした産業の活性化と

項目	番号	ページ	委員発言内容	事務局対応案	修正案及び修正をしない理由等
(1) 経営強化の支援	38	110	“中小企業等の事業環境を整備するため、”とあるが、新潟の会社はほとんどが中小企業になると思うが、あえて中小企業といっている意味と、零細、中小、大企業の区分が分からない。	2	ここでは、零細企業を含めた「中小企業」ということで、逆に言うと、「大企業以外」ということです。 中小企業者とは 工業等 従業員300人以下又は資本金3億円以下 卸売業 100人以下又は1億円以下
(3) 既存産業の振興					
地域商店街の活性化	39	111	大規模小売店舗の定義を教えてください。	2	法律の基づき、売り場面積が、1,000㎡超えの小売店舗を大規模小売店舗と
ものづくりを中核とする既存工業の高度化	40	111	“漆器などの伝統的地場産業の育成を図る”とあるが、漆器についての市民の認知が非常に低いので、市民的な認知の向上を図ってもらいた	2	見本市の開催などPR活動の推進を図っている。
	41	111	漆器については、“伝統的地場産業”というより、“伝統工芸”という書き方にし、“伝統工芸の育成を図る”としてはどうか	1	「厳しい状況にある伝統的工艺品（仏壇・漆器）などの育成を図る。」に修正します。
	42	111	事業拡大などへの支援のほか、技術の高度化への支援も必要である。	2	「事業拡大など」には技術の高度化や情報力強化も含まれている。
(4) 交流ビジネスの振興					
魅力あふれる観光都市づくり	43	111	新潟は良いところが、たくさんあるが、それを解説できるガイドがない。ガイドを含めたソフトパワーの整備が必要である。	2	「みなとまち新潟」の風情が今も残る新潟島の下町地区を中心とした観光コース構築として、史跡や歴史的建造物などへの「お宝解説板」や「誘導案内板」の設置と共にコースを案内でき
	44	111	お酒のほかに、魅力ある土産品づくりが必要である。	2	現在、中国や台湾からの観光客に対するお土産としては、お米やお酒のほかに日本人形など、日本的なものが喜ばれています。 外国人向けに限らず、新潟市のお土産品の育成を目的に「新潟市土産品コンクール」を2年に1回開催しており、お菓子や、食品のほか「工芸品部
	45	111	観光ガイドの育成などの、受け地型ビジネスの整備が必要である。	2	「みなとまち新潟」の風情が今も残る新潟島の下町地区を中心とした観光コース構築として、史跡や歴史的建造物などへの「お宝解説板」や「誘導案内板」の設置と共にコースを案内できるボランティアガイドの養成に取り組んでいます。
コンベンションシティの推進	46	111	“アフターコンベンション”という言葉があるが、飲食のほかにいろいろ見られるところがあるという意味で、“エクスカーション”を使っ	2	「アフターコンベンション」は「エクスカーション」も含まれますが、飲食も含め、新潟の様々な魅力を堪能してもらうことを意味します。
	47	111	飲食の中にも、地元の食や花をPRするという戦略が含まれているのか。		他の施設展開の中で食や花、みなとまちを核とした都市イメージの確立を盛り込んでいる。
	48	111	コンベンション施設の活用をもっと強く表現すべきである。	1	「朱鷺メッセ、産業振興センター、ホテル等のコンベンション施設や国内高速交通体系と市街地に近い国際空港をセールスポイントにコンベンション主催者に対する各種の運営支援を行って行きます。また、アフターコンベン
	49	111	コンベンションそのものを創出することも考えているのか。また、地元企業のプロデュース機能の強化とい	1	「ウェルカム装飾」は、新潟市の特産である花を使った一つのお出迎え手法としての記載であり、「新潟の花を使ったおもてなしの園芸装飾」に記載変更
海外からの誘客促進	50	112	“ウェルカム装飾”がよく分からない。花を使ったおもてなしの園芸装飾とか、市民のオープンガーデンなど来た人が楽しめるような園芸、空間	1	「ウェルカム装飾」は、新潟市の特産である花を使った一つのお出迎え手法としての記載であり、「新潟の花を使ったおもてなしの園芸装飾」に記載変更
	51	112	市のホームページは、何ヶ国語になっているか。	3	現在は英語版だけですが、今年度中に韓国語・中国語・ロシア語の3カ国語の観光ホームページを作成・公開する予定です。

項目		番号	ページ	委員発言内容	事務局対応案	修正案及び修正をしない理由等
(5) 産業を担う人材の確保	雇用の拡大と確保	52	112	“外国人観光客の誘致体制の強化”に、外国人に分かりやすい二次交通の整備について、踏み込んで書いてもらいたい。	1	「中略・・・旅行エージェントへの助成を制度化するほか、新潟空港から宿泊施設等への2次交通の整備や外国人にも分り易いサイン整備を行うなど、今後、検討します。
		53	112	男女共同参画に対する新潟市の意気込みが伝わるような文章にして欲しい。	3	
		54	112	フリーター、ニートの雇用拡大について、就業体験、インターンシップ制度、就業後のカウンセリングの支	2	委員の意見は包含されています。
		55	113	新潟独特の何をアピールし、どうい	2	製造業、運輸業、情報通信関連企業を中心に行うが、活力ある優良企業は業種を特定しない。
4 日本海政令市の拠点性の強化	(3) 広域交通ネットワークの構築	56	118	一般の方もこの計画をご覧になることから、混乱が生じないように、事業主体が分かるような文章にしてください。後で相談させて欲しい。	3	この計画の説明責任は本市であり、また、市民は事業主体にかかわらず計画の推進を望んでいると考えられます。今の時点で事業主体が明確になっていない事業もありますので、表現について
		57	118	白山駅の南口を含めた整備はどうなっているのか。	2	連続立体交差事業では、白山駅にもう1面ホームを増やす計画があります。そのなかで、南北通路を含めて検討さ
	(4) 世界に開かれた交通機能の強化	58	119	「駅から空港のアクセス向上を図り」とあるが、市として新幹線や新交通システムなど腹案を持って書かれたのか。	2	軌道系システムによる空港アクセスは、莫大な建設費など事業採算性が最大の課題として指摘されている。しかし、空港のアクセス向上は拠点性の強化を図る上で、避けては通れない重要な課題であり、中長期的な展望の中
		59	119	空港の利用を促進するために、空港の駐車料金に対する補助は考えられないか。	2	今のところは補助はありません。もう少し広くしたいとは考えている。(昨年12月に、空港の第1駐車場内に立体駐車場が建設され、325台駐車場が増え、駐車合計台数は1,115台となっ
	空港アクセスの強化	60	119	来年から総合計画がスタートするわけで、短期・中期ではこういうことというような具体的なことが書き込めないか。	2	短期的には国体までを考えているが、今、県・市・JRで検討中で色々な意見が出ておりますし、中期的には軌道系のシステムなどについて投資効果等を考慮し検討しなければならぬので、今回はこのような表現にしたい。
		61	119	バス交通よりも軌道系交通の機能強化をした方が効率が良いことから、バス交通と軌道系交通を入れ替えてはどうか。	2	どちらが先かこだわっているわけではないが、現在道路運送法の改正による交通空白地帯をつくらないということで、バスの方に力を入れていることか
(5) 安全・便利な公共交通体系の構築	バス交通の機能強化	62	119	複数のバス会社に運営させて競争させることは考えられないか。	2	道路運送法の改正により、参入も撤退も自由になったことから、一社独占ではなく、他のバス事業者にも手を挙げ
5 賑わうまちなか						
(1) 都心回帰の促進	都心居住の促進	63	123	“都心回帰”について、都心では商業・業務の都心機能を充実させるとしていることから、「都心」、「都心周辺部」、「中心市街地」、「まちなか」という関係を整理したうえ	3	新潟市では、P38の図で示している部分を都心としている。また、都心においては、商業・業務機能のほかに、職住近接の良好な居住地としても考えている。
		64	123	“多様なニーズ”とあるが、もう少し施策につながるような書き方をしないと何を言いたいのか分からない。	1	「多様なニーズ」を「職住近接による利便性の高さを求める居住ニーズ等に」に修正します。
	65	123	都心にも居住をということであれば書いても良いが、都心だけでなく、都心周辺部も入れてもらえば問題な	3	施策第二階層は「都心居住の促進」のままとし、説明文を都心及びその周辺部で都心居住を促進する旨修正しま	
	66	123	高齢者は自転車に乗れないことから、高齢者をまちなかに住まわせるためには福祉バスの整備が必要。	1	「都心居住を促進します。あわせて、都心部へのアクセス性の向上も含め、利便性の高い総合的なバスシステムの構築を促進します。」に修正します。	
(2) 水辺を活用したにぎわいづくり	67	123	舟運の活用の記載が必要である。	1	「舟運によるにぎわいづくりの検討―信濃川をはじめとした河川などにおいて、市民や来訪者が水上から水に親しめる環境や、溝部のにぎわいを創	

項目	番号	ページ	委員発言内容	事務局対応案	修正案及び修正をしない理由等	
(3) 住む人、来る人のための都心づくり	ゆとりと安心のみちづくり(再)	68	124	自転車や歩くことが少なくなったので、商店街がだめになったと思う。自転車に乗っていると、段差など歩道と一緒にいると使いにくいことから、自転車と歩行者を分けた専用道を整備する必要がある。また、自動車の通行を禁止し、歩行者や自転車を優先させる道路整備も必	2	既存の道路幅員を有効に活用して整備が図られることもひとつの方策と考えているが、具体的な整備にあたっては、委員の意見を踏まえ整備を進めていきたい。
		69	124	放置自転車の問題から駐輪場の整備をすることは良いが、自転車の良いところは行きたい場所のまん前までいけるといことであるため、設置箇所など、より使える駐輪場とはどんなものかという観点を忘れずに	2	具体的な整備にあたっては、委員の意見を踏まえ自転車の利便性が図られるような駐車場の配置について、地域の方々のご意見を伺いながら整備を進めていきたい。
(5) 地域のまちなかのにぎわいづくり		70	125	“地域のまちなか”とは。	3	合併したそれぞれの市町村でも、まちの中心となる市街地がありますので、そうしたところも「地域のまちなか」と位置づけています。
		71	125	まちなか居住を進め、高齢者がまちなかに居住しても、商店街の再生が難しいことから、買い物できる場所や診療所もないということになりか	3	地域の商店街が維持・継続されるよう必要な支援を行います。(商工労働部と協議中)
	地域商店街の活性化(再)	72	125	政策論が先で、効果的な支援を実施するのはその後だろう。もっと強い政策的表現を	2	「商業マネジメント機能の推進」の中で方向性を打ち出す予定。